

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071100939		
法人名	有限会社めぐみ		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	福岡県福岡市南区松原1丁目17番16号		
自己評価作成日	令和2年1月14日	評価結果確定日	令和2年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和2年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

医療ニーズの高い方を受け入れております。ご家族の方の「普通の家で最期」と望む声に対応しています。そのために私たちに出来ることを、かかりつけ医師、看護師、看護職員と力を合わせて支援しております。一方で他入居者様にも、より家庭的な支援を心がけています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成14年に開設された「グループホームめぐみ」は住宅街の一角にある、民家改装型の1ユニット事業所である。外観は近隣と同じ一般家屋だが、中は広く1階に全ての居室があり、裏には立派な日本庭園も備えられる。法人は市内にもう1か所グループホームを運営し、研修などは合同で企画されている。代表が看護師でもあることで、当初より医療体制には力を入れており、「終の棲家」としてまるで我が家で最期を迎えるような自然な形での見送りを行ってきた。昨年からは地域の介護事業所と協力して「花畑見守り隊」を結成し地域支援に取り組んでいる。日頃朝のラジオ体操、レク、歌、などで楽しく過ごしてもらい、大家族のような和気あいあいとした空気で包まれている。これからもお隣にある介護施設のような自然さで地域を支える働きが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフが理念を見返すことができる様に詰め所に張り出し、携帯用も用意し毎朝朝礼時、全員で理念を復唱することでスタッフ間に共有し意識を高めていくようにしています。ご近所様や来訪者と交流を図り、入居者が安心安全に過ごしていけるケアを実践しています	以前からある法人理念を用い、管理者研修を行っており、その中で今後は理念の見直し、振返りを検討する予定である。朝礼時に「職場の教養」という冊子を用いて、理念の読み合せとともに、職員間で感想なども言い合っている。「すべては利用者のために」というスローガンも掲げ、職員も意識を統一して実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流の場への参加は勿論のこと、今年から地域事業所で「西花畑守り隊」を立ち上げ他事業所の方々と共に地域貢献に向け、毎月会議に参加しています。地域の方のお困りごとの相談や依頼に答えたり、催し物への参加などを行います。参加時には認知症やグループホームへの理解を促し来訪の声掛けもしています	町内会にも加入しており、可能な範囲で、利用者も一緒に地域カフェや行事には参加している。地区総会にも参加し、施設紹介などもさせてもらっている。近隣との関係も良好で、気さくに挨拶を交わしており、施設のクリスマス会には地域ボランティアに来てもらっている。地域情報は公民館便りや掲示板などで確認している。	「西花畑守り隊」への参加が昨年からなされているが、その活動を更に広げて、グループホームめぐみとしての周知を進めていくような取り組みもなされていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災などへの呼びかけや町内行事への参加、地域ケア会議などで情報交換を得て意見交換しサービス向上に努めています。今年は小学校で行われた、フェスに「守り隊」の一員として1ブース出店しました		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議への参加を町会長や入居者関係者に呼びかけ、民生委員、包括センター、後見人司法書士、町会長などによる情報交換や支援方法・意見を参考に、評価に努めています。会議の内容を入居者家族様へもお送りしています	2ヶ月に1回4週目火曜日の15時から定期的に行われ、町内会長、市の担当ケースワーカー、地域包括、成年後見人などにも参加してもらっており、家族にも日程案内しているがこちらは不参加が多い。昨年は事業所から他グループホームの会議にも出席した。会議内では入居状況や、行事予定などの報告を行い、議事録は家族にも郵送報告している。	近隣の関係のあるグループホームと、運営推進会議の相互乗り入れなどを行い、やり方について深め合うのは良いのではないかな。家族の案内についても、参加してもらいたいという気持ちで出欠まで尋ねたりするなど、参加が増えるような取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括センターへの訪問、他施設からの問い合わせ、保護課との情報交換を行っています。市町村との連携には心がけています	生活保護の方の受入れもあり、担当ケースワーカーには定期的に報告をしている。地域包括の職員とは地域の「西花畑守り隊」の活動と一緒に運営に携わっている。介護保険課とは、質問ごとなどあった際に電話で尋ねる。	運営推進会議の議事報告やお便りの発送など、定期的な報告などを無理のない範囲で継続することで、市町村との連携を図っても良いのではないだろうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での勉強会を始め、外部研修を受けた社員からの伝達講習、リスクマネジメントマニュアルなどによる拘束をしないケアを行っています	玄関施錠はしていないが、リビングに面しており、離脱事故はこれまでもなかった。原則、身体拘束をしない方針で、以前もセンサー利用程度しかなかった。昨年は外部研修にも参加し、伝達研修も行った。昨年から身体拘束廃止委員会も組織し、3ヶ月ごとに開催、勉強会を行い、スピーチロックなどについても振り返りの機会を持っている。	

2020.1自己・外部評価表(グループホームめぐみ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル、勉強会、意見交換により日常的に、職員が注意を払い防止に努めています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強、外部への研修、包括センター、民生委員、後見人の司法書士、ケアマネージャーなどに説明を受け、活用できるようにしています	入居前から外部の後見人利用をされている方が3人おり、現在も後見人とのやり取りを定期的に行っている。研修も内外で定期的に参加しており、職員も一般的な知識はもっている。何かあった時も司法書士の後見人に尋ねることも可能である。	説明用の資料やパンフレットなども常備しても良いのではないだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に自宅、入院先を訪問し、ご家族との情報交換、本人との情報交換を行い、契約時には細やかな説明を実施しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近況報告はもちろんのこと、行事への来訪の声掛けを行っています。来訪時やお電話で御家族のご希望を伺いプランに反映しています	半数程度の家族は2、3ヶ月に1回程度は来ており、疎遠な方に対しては請求書と合わせて個別にお便り、写真入りの「めぐみ通信」によって状況を報告している。家族の面会機会は少ないが、来訪時には意見などを聞き取っている。	疎遠になっている遠方の方についても定期的な報告のやり方やあり方を検討されても良いのではないだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一の勉強会や定例会議、カンファレンス時に意見交換をするようにしています。そこで出た意見を経営側へ伝えています	毎月の会議は、パート職員も含め原則全員参加で行い、同じ日にカンファレンス、勉強会、会議をしている。利用者の状況のほか、行事、予定ケアについてなど話し合われる。意見も上げやすく、会議以外でも気づいた時に気軽に管理者等と話し合うことが出来る。管理者も現場にいることが多く話しやすく、年2回の個別面談もされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への参加・介護関係の資格習得を促し、給与基準の改善を行い、可能な限り休日の希望も聞いています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別は関係なく、その職員に合った業務に個性や技術を生かし取り組める雰囲気づくりに努めており、法人外での研修、施設内での研修、伝達も行いスキルアップを目指しています	男女比は1:9程度で、20～60歳代までと各年代に幅が広い。外部研修の案内もあり、希望すれば勤務としての参加も出来る。調理も職員で持ち回りでしており、ケアでも資格や経験を活かして相互に協力して行っている。スペース上休憩場所の確保は難しいが、利用者と一緒にリビングなどで過ごしている。	スペース上、見守りと休憩を切り分けて取るのは難しいが、15分とか30分程度などで分割して確保したり、メリハリをつけた勤務が出来るようになることが望まれる。

2020.1自己・外部評価表(グループホームめぐみ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法令遵守や人権運動などに関する研修・法人理念の復唱などを行っています	虐待防止や権利擁護、法令遵守に関する研修は毎年定期的に、法人内の合同研修で行っている。認知症高齢者に対する理解なども進めているが、人権教育についての外部研修などの参加はなかった。	「県政出前講座」や人権関連団体の講師派遣、動画研修、ネット資料なども利用して、人権教育・啓発活動がなされることにも期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの長所、短所、得意分野、相性などを把握しスタッフ間で指導・外部研修・伝達講習などスキルアップを図っています具体的には外部講師による研修や資格習得の援助などを行っています		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設の見学、町内会の集まり、地域ケア会議、「西花畑守り隊」の会議などで意見交換や情報収集をしながらサービス向上に努めています。全国GH大会へも参加して、他施設の方と交流意見交換をしています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、自宅、病院や施設を訪問し、ご家族、関係者と情報交換を密に行い、雰囲気作りや、生活の留意点を把握し入居時の不安解消に努めています		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記の通り、入居前の訪問と面談で家族の希望、本人の意向、生活歴、思考、趣味嗜好、などをプランに反映しています		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で現状とご家族・本人の意向を十分に把握したうえで、プランを作成し説明も十分行っています		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を楽しんでいる	介護される側とする側ではなく、なじみの関係性を作り家族的な雰囲気づくりに努めています		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を楽しんでいる	スタッフの年齢層がたかいこともあり、ご家族の相談相手となれる様、気軽に話せる雰囲気を作っている。来訪時にはこちらから声をかけるようにしている		

2020.1自己・外部評価表(グループホームめぐみ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のご家族や友人の方からのお電話や来訪には、24時間オープンで対応できることをお伝えし、希望があれば可能な限りご本人をお連れしています。配偶者がおられる方には、定期的な面会をお勧めしています。	家族の面会機会はある方とない方がいるが、面会は自由に受け入れており、過去には友人や知人の来訪もあった。疎遠な方には間に立って、面会をお願いすることもある。一昨年、孫の節句に県外まで泊りで同伴して支援を行った。市内遠方の入居者が多いが、施設中心として新たに馴染みの関係を築いている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション、誕生会や行事ごとなど交流を図り、スタッフ、入居者同士支えあっています		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入居者ご家族が立ち寄ってくださったり、お電話やお便りが届いています。他施設へ転居されたり、入院されたりされた方への面会も相手方の迷惑にならない程度行っております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者の生活リズムや行動を把握し、スタッフ間で情報交換しながら、共有して話し合い、本人の意向に沿うように検討しています	アセスメントの様式の見直しは随時行っており、現在もより情報量を書き込めるように大判のものに変更を検討している。取得は初回は本人、家族から管理者が行い、その後職員からも情報を補足する。見直しは介護更新時などに行う。意思疎通が難しい方には行動の観察、推察などで働きかけ把握に努めている。	見直しを行った際には、色を変えて記述したり、見直し日を記録することで確認が取れるようにすることが望まれる。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の暮らしてきた環境や時代背景を、ご家族の話や日々の生活の中の、本人の話や言動から察しながら、把握に努めプランに反映しています		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりと接する中で感じたことを、スタッフ全体で共用し、情報交換しながら把握に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議、運営推進会議、カンファレンス及びスタッフミーティングにより、介護プラン作成に反映しています	プラン作成はケアマネが行う。ケアマネ資格を持っている職員もおり、話し合いながらプランの見直しにつなげている。見直し時には職員間で共有も行い、振り返っている。プランモニタリングは3ヶ月、見直しは6ヶ月で行い、その際に担当者会議をその日の出勤者で開催している。家族からは面会時に聞き取って反映させることがあれば繋げている。	以前はプラン実施の共有をしていたが、今はそこまでは出来ていないので、職員全員が全入居者のプラン内容を意識してケアに繋がれるように、話しあい、実施がなされることが期待される。

2020.1自己・外部評価表(グループホームめぐみ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はできるだけ具体的に記入しカンファレンスやプラン見直し時に生かせるようにしています。情報の共有は申し送りノートを活用し徹底しています		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気大切に、入居者が気兼ねなく何でも話せる雰囲気づくりをしています。状況に応じてできる限りのサービスを心がけています。結婚式や家族行事への同行、病院への付き添いなど。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーやコンビニへの買い物や散髪、交流サロンの利用、行事への参加など入居者の方々が出来るだけ豊かな暮らしが送れるように支援しています		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員提携医の2週間に1回の往診を受けています。緊急時には在宅系の協力体制を取り、救急病院への迅速な受診などにより支援しています	希望すれば外部のかかりつけ医を継続できるが、基本的には事業所の提携医に切り替えてもらい、往診を受ける。外部への受診も支援しており、必要があれば家族にも同席をお願いする。施設に看護師が夜勤含め5名在籍し医療連携、健康管理を行っている。家族にも健康状況の報告をお便りや電話などで共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の異常に気付いたらすぐ管理者が介護職に報告するように徹底している。報告を受けた介護職の判断で主治医に報告し指示を仰ぐ。提携医や看護師による指導や相談を適宜実施、し研修や講習を行っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の送迎はもちろんのこと、入院時の面会や洗濯など行い、病院との情報交換を密にし、ご家族・病院と連携を取りながら、緊急時の協力体制の充実を図っておりす。退院時にはカンファレンスにも参加しDrとも事前に調整して受け入れてもらっています		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の入居者に関しては医師と看護師の指導による対応と、終末期のご家族の意向をもとに、主治医との綿密な情報確認をしながら、支援に取り組んでいます。早期から終末期について説明し希望される方とは書面にて確認しております。	以前から看取り指針を設けており、看取りの方の受入れも行っている。「終の棲家」とうたっており、IVH、鼻腔栄養の方なども受け入れている。これまでも6、7名の方を見送り、職員も経験を積んできている。医療やターミナルケアについての内外の研修も定期的に行っており、ターミナルに入った方がいる時は提携医や看護師からの指導も受けている。	

2020.1自己・外部評価表(グループホームめぐみ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時には対応マニュアルによる対応と、医師・看護師による実践教育と医療機関への迅速な連携を実施しています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防局の指導による防災訓練や地域の防災訓練に参加し、防災マニュアルに沿って訓練を実施しています	消防訓練を年2回、地震想定は話し合いで行う。消防訓練は設備会社立会いで行い、消防には報告をしている。入居者は1階だけに居住、スプリンクラー設置もしており避難はしやすい。隣近所や近くのコンビニとは緊急の際の協力をお願いはしているが、訓練参加まではない。備蓄としてはないが、多めの食料品の確保で代替している。	地域の近隣施設とも防災についての協力関係を今後は相談、提携を進めて行かれることもよいのではないだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の個性や人格、プライド、プライバシーの尊重を重視し声掛けや介助・介護の支援を行っています	入居時に、それぞれが希望される呼び掛け方を確認し、さん付けで呼ぶようにしている。接遇、マナーについての研修も行う。入浴やトイレ介助時のプライバシーについても極力注意を払っている。「めぐみ通信」で写真の利用はあるが、内部だけに留め、口頭での同意を得るようにしている。	現在は写真などの外部利用はないが、今後おたよりなどを使われた際に備えて、入居時などに写真利用を含めた同意書をとられても良いのではないだろうか。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言動や行動の中から本人の思いを察知し、スタッフ全体で情報を交換・共有し本人が自己決定できるよう支援しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気づくりをし、入居者の意向を大切にその方に合った生活づくりを支援しています		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目に、早めに衣替えの支援を行い、清潔感のある本人の希望に沿った洋服や身だしなみができるよう支援しています		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや体調、状態に合わせ調理法や形態を変えたり、旬の食材を使い季節感を感じていただけるような工夫をしています。出来る方とは、野菜の皮むきやもやしの根取などを一緒に行っています。	リビングに面したキッチンで、職員がその日その日のメニューを決めて調理している。買い物は週一で職員が行う。職員も一緒に食事を取り、感想や食べたい物を聞き取り反映させることもある。年に1、2回は外出行事と合わせて外食に出ることもある。以前は配下膳もあったが、今は利用者が座りながら出来るような下ごしらえなどを手伝ってもらっている。	

2020.1自己・外部評価表(グループホームめぐみ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の全身状態の観察・把握に努め季節や状態に応じた水分量を主治医や看護師と相談設定し、その方の嗜好や習慣を踏まえたうえで、バランスや摂取方法など工夫しています		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科に加え毎食後の口腔ケアの実施を行っています		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用をなるべく減らし、時間毎の誘導と、個々の行動パターンに合わせた誘導を心がけて、本人のペースに合わせ自立への工夫をしています	排泄チェックを毎日の介護日誌の記録の中で24時間管理し、排便については1ヶ月分を全員分1枚の記録で管理出来るように転記している。極力トイレでの排泄を行い、パット使用の改善などにつながった方もいる。排便コントロールによって汚染も減り、自立や精神的抵抗の減少にもつなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は消化の良いものや食物繊維を含むものを使用し水分摂取に心がけ、体操や運動、主治医の指導の下、下剤服用、座薬など便秘解消の工夫をしています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の全身状態や意向を重視して無理強いをせず希望に沿って入浴を支援しています	簡易手すり付きの普通浴槽で家庭用のユニットバスがあり、週2回午後の時間に入浴してもらっている。夏場は週3回にすることもある。拒まれた際は時間や日にち、担当を変えて働きかけ、週2は確保している。皮膚観察や健康管理も行い、看護師が介助に入ることもある。入浴剤や季節の行事浴などで変化を楽しんでもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の睡眠状態を観察・把握して、時に添い寝を行い、良眠出来るよう支援しています		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的往診で届いた薬は、Drや薬剤師による説明を受け、スタッフにより処方箋と照らし合わせ、正確な服薬を支援しています		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事や地域交流行事への参加、運動や体操、合唱やカラオケなど、本人に合わせすごしていただき、家事ができる方にはそれなりの役割を持って、生活にメリハリをつけています。		

2020.1自己・外部評価表(グループホームめぐみ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば職員付き添いでの散歩、買い物、行事への参加など支援しています。また本人とご家族の希望が合えば外出・外泊支援も行っております	歩いて行ける範囲に桜原桜があり、花見の季節には楽しめる。コンビニでの買い物や近隣の花を散歩がてらに眺めることも多い。外出行事としては年6回程度ミカン狩り、初詣、花見、紫陽花、コスモス見物などで遠方に足を延ばすこともある。日頃も週一程度は近隣への外出をしており、車いすの方は無理なく近場に留めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、ご家族や行政関係者をお願いしています。入居者の希望があれば後請求で買い物など行っています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があれば、電話の取次ぎ、手紙の代筆、郵送の支援を行います。ご家族に対しては電話や請求書とともに施設通信や連絡事項・近況報告の手紙を添えて郵送しています		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅街の一角にある一軒家のリフォームで、昭和の香りを残す家庭的な作り。裏庭があり季節の花々を植え、自分の家を思わせるような雰囲気を持っています。リビングの屋根に明り取りの窓があり、日中は穏やかな日が入ります。リビングから見るとところに台所があり、食事の準備中にもおいしそうなおいが漂います。	玄関入ってすぐにリビングがあり、利用者もここで過ごすことが多い。4人掛けのテーブルや、一人掛けのテーブルなどそれぞれの場所でゆったりと過ごしている。きれいに管理された庭園があり、桜、梅など季節の花や緑が楽しめ、気候の良い時にはレジャーシートを広げてピクニックも楽しめる。車いすの方も多いが、車いす用トイレもあり、行き来も不自由なくできている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	民家改装のホームのため、区間の確保が難しいですが、リビングに集まり、運動や体操、レクレーションを行、い歌を聴きながら歌ったりカラオケをしたり、一人になりたいときは居室で過ごしたりされています		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入渠前よりご家族の協力を経て本人が使っていたものを持ってきたいただき住み慣れた雰囲気作りを工夫しています。	1階に全ての居室があり、位置により窓のあるなしはあるが、概ね広さは共通で、家具などを入れても余裕はある。庭に面した居室は日当たりも良く、夫婦で利用の出来る間仕切りの部屋もある。クローゼット、介護ベッドは備え付けで、仏壇やテレビなど使い慣れたものの持ち込みも自由ができる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ居室に危ないものを置かず残存能力を生かして、「出来ることは自分で」をもっとうに過剰な介護はしないようにスタッフ全体でミーティングを行い統一した介護を心がける		